

「九州北部豪雨から感じたこと」

福岡県 福津市立福間中学校 2年 小樋 拓弥

平成二十九年七月、九州北部豪雨。

記録的な大雨となった、福岡県朝倉市・東峰村・大分県日田市などで、甚大な被害が発生しました。

川の氾濫、土砂崩れ、大量の流木、家屋への浸水など、テレビで報道されていたのは、みんなの記憶に鮮明に残っていることと思います。

私の祖父母の家が朝倉にあります。幸いにも被害は少なかったようで、ひとまず安心しました。

七月十六日、私は朝倉へ向かいました。祖父母の家へ向かう途中、基礎がむき出しになり、今にも倒れそうな校舎の一部、崩れている橋、土に埋まった車、道に置いてある流木、泥に埋もれた畑、家や庭に入ってきた土をかき出している被災者の方々…テレビで見た、そのままの光景がそこにありました。

八月十四日、お盆にまた朝倉へ行きました。七月に見た土に埋まった車はまだそのままの状態でした。たくさん流木が積み上げられ、少しずつ復興が進んでいるようだが、災害から一ヶ月経っても、被害の大きさが分かる状況でした。

伯母は、朝倉市の職場にいる時に災害に遭い、家に帰ることができなかったそうです。「水がどんどん流れ込み、建物があつという間に飲み込まれ、水かさがどんどん増していくのを目の当たりにして、助からないのではと不安だった。家族が無事であるのか、とても心配だった。」とその日のことを話してくれました。

まさか、こんな事態になるなんて、誰が予想したのでしょうか。誰もが予想すらしていなかったと思います。

毎日のように、災害ボランティアの方が多く参加し、活動してくださっていました。「暑い中、助けていただいて感謝しかない。」と祖母がつぶやいていました。

先日、父が一日だけボランティアに参加していました。朝倉の高木地区というところに行ってきたそうです。山手の方の地図を見ながら、次のように話してくれました。土砂崩れにより、まだ道路が使えない状況の中、家の片付けをして、さらに生活していかなければならない被災地の人たちは想像以上に大変だと。

そこで、今自分にできることを考えてみました。まだ災害ボランティアなどに参加できていないけれど、日常生活のできるボランティアもあると思います。例えば、道端で困っている人やお年寄りの方たちへの手伝いや清掃活動など身近にできることがあると思います。規模の大きいものから小さいものまで様々なボランティア活動がありますが、人のために思い、人のために活動する思いや心は同じだと思います。

「困っている人を助ける。」その思いのもと行動できるように、日頃から心がけたいと思うようになりました。

突然起こるのが自然災害です。しかし、自然の恩恵を受けているからこそ、人間は生きていられるのです。自然に人間が勝つことはできません。自然と共生共存していくことが大切なのです。

では、突然起こる災害にどう対応したらよいのでしょうか。答えは「備え」です。私たちは災害を防ぐことができなくても、災害に備えることはできます。学校や地域の防災訓練、防災グッズの準備、家族の安否確認の仕方など、災害が起こった時に、どう行動すべきなのか、落ち着いて行動できるようにしておくことが大切なのだということが分かりました。学校の防災訓練をつい言われるがままに行動していたけれど、それももう今日で終わりにします。自分のこととして受け止め、実際に起こったらと災害時を想定し、自分の頭で考えて訓練をしていきます。また、家族とも避難場所を決めておきたいです。

今回の九州北部豪雨は、どこでも災害は起こりうること、そして、その「備え」をすることの重要性を実感することができました。日頃の「備え」は誰でも今から始められます。皆さんも私と一緒に災害に「備え」てみませんか。